

境港市 原子力発電所環境安全対策協議会

令和2年度 原子力防災訓練実施状況

境 港 市

令和2年度原子力防災訓練実施概要

1 今年度の特徴

- (1) 新型コロナウイルス禍の中、実施できる訓練を計画
- (2) **自家用車による住民避難訓練を初めて実施**
- (3) 新型コロナウイルス**感染者を想定した搬送訓練**に参加
- (4) 新型コロナウイルス**感染拡大防止を図りつつ訓練**を実施

2 実施日時

- | | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| (1) 原子力防災講座 | 10月17日(土) | 13:00~15:00 |
| (2) 災害対策本部等運営訓練 | 10月28日(水) | 8:30~12:00 |
| (3) 住民避難訓練等 | 10月31日(土) | 8:00~13:00 |

3 実施場所

境港市役所、保健相談センター（講堂及び駐車場）、陸上自衛隊美保分屯地、道の駅琴の浦（避難退域時検査会場）、鳥取空港

4 訓練内容

- (1) 施設敷地緊急事態（SE）～全面緊急事態（GE）までの対応
- (2) 原子力防災ネットワークシステムによる情報の送受
- (3) 緊急速報（エリア）メール等による情報伝達（住民避難）
- (4) **自家用車避難**
- (5) **新型コロナウイルス感染者を想定した搬送**
- (6) **在宅避難行動要支援者を想定した搬送**

訓練成果及び課題等

訓練項目	訓練成果	課題等
災害対策本部運営訓練等	原子力災害発生時の施設敷地緊急事態～全面緊急事態の段階における手順確認及び各種会議への参加等により、 <u>対応方針の確認や情報の共有</u> ができた。	災害対策本部における運用訓練が、 <u>各種会議等に重点を置いた訓練</u> に偏ってしまい、災害の進展に応じた対処手順等の確認が十分にできなかった。
情報伝達訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民避難の指示を緊急速報（エリア）メール、防災行政無線、トリピーメール等の伝達手段により、迅速に行うことができた。 2 防災行政無線の<u>放送内容を、PC入力（テキストデータ）</u>により行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 急な伝達を要する場合の処置を迅速に実施するため、伝達の優先順位や<u>役割分担をする必要がある</u>。 2 緊急時においても、防災行政無線の放送内容を、<u>PCにより円滑に入力する必要がある</u>。
自家用車避難訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 夫婦や知人との相乗りや、単身による自家用車避難訓練が実施できた。 2 市職員による公用車を利用した自家用車避難訓練が実施できた。 3 自家用車避難者に<u>ゲートモニターや放射線測定機による検査を体験</u>させることができた。 	自家用車避難訓練に参加する車両数が限定されていたため混雑もなく、全体的に予定していた時間より早く避難退域時検査会場（道の駅「琴の浦」）に到着したが、避難指示により自宅から一斉に避難を開始した場合の <u>市内の渋滞や事故発生時の対応について、関係機関と検討</u> しておく必要がある。
新型コロナウイルス感染者を想定した搬送訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>自衛隊救急車による感染者の搬送</u>について、確認することができた。 2 <u>自衛隊ヘリによる感染者の搬送</u>について、確認することができた。 	定められた時間に患者役を待機させ訓練に参加したが、 <u>訓練当日に関係機関と連絡を取る等の手順</u> を取り入れた訓練を行なう必要がある。
在宅避難行動要支援者を想定した搬送訓練	<u>福祉車両（ストレッチャー車）</u> による在宅の避難行動要支援者の搬送手順を確認することができた。	中国電力職員による搬送訓練の支援であり、市職員は <u>訓練開始時の統制及び見学のみ</u> となった。
安定ヨウ素剤関連	事前講座により自家用車避難時の安定ヨウ素剤の入手・服用について徹底することができた。	事前講座に参加できなかった自家用車避難訓練参加者については、避難訓練当日に資料配布を行うだけとなり、安定ヨウ素剤の受領要領や服用に関する説明ができなかった。
事前講座	事前講座を通じ、放射線の人体への影響や防護措置について理解を深めることができた。	訓練参加者が全員受講できるよう、訓練当日に避難退域時検査会場を実施すべき。

1 会議等

(1) 災害対策本部等運営訓練

- ① 地震・原子力災害の進展（S E～G E）に応じた対策会議等の実施（18名：リエゾンを含む）
- ② 境港警察署及び境港消防署派遣員との情報共有
- ③ 中国電力連絡員による事象報告

(2) 前方対策本部会議（初）

避難退域時検査会場内に設置された特設会場で、県、境港市、米子市、警察、自衛隊等により、渋滞の未然防止及び感染拡大防止について情報共有等を実施

<主な成果>

- ① S E～G Eにおける各種手順の確認及び派遣要員との情報共有ができた。
- ② 各種TV会議への参加により、事象対応方針の確認や情報の共有ができた。
- ③ 前方対策本部会議により、避難開始後の情報共有ができた。

2 情報伝達訓練等

- ① 緊急速報（エリア）メールによる情報伝達
- ② 防災行政無線、トリピーメール、SNS等による住民広報

<主な成果>

- ① 避難指示の伝達手順の確認及び住民への伝達が実施できた。
- ② 各種情報配信手段を活用した情報配信ができた。

災害対策本部等運営訓練、情報伝達訓練実施状況



【中国電力による説明】



【災害対策本部会議】



【前方対策本部会議】



- ◆ 保健相談センター前駐車場 → 道の駅「琴の浦」
 - ◇ 自家用車避難訓練
 - ・感染症拡大防止手順の確認
 - ・安定ヨウ素剤に関する資料配布
- ◆ 境港市役所 → 道の駅「琴の浦」
 - ◇ 新型コロナウイルス感染者を想定した自衛隊救急車による搬送訓練
 - ◇ 在宅避難行動要支援者を想定した中国電力職員による搬送訓練支援
- ◆ 陸上自衛隊美保分屯地 → 鳥取空港
 - ◇ 新型コロナウイルス感染者を想定した陸上自衛隊ヘリ（CH-47）による搬送訓練
- ◆ 道の駅「琴の浦」（避難退域時検査会場）
 - ◇ ゲートモニター及び放射線測定器による自家用車の放射能汚染検査体験
- ◆ 保健相談センター講堂
 - ◇ 原子力防災講座

1 参加者数

訓練内容	訓練名	境地区	上道地区	職員	合計
①⑥	自家用車避難 (自家用車等台数)	19人 (8台)	11人 (8台)	10人 (10台)	40人 (26台)
③	陸上自衛隊救急車			2人	2人
④	陸上自衛隊ヘリ			2人	2人
⑤	中電福祉車両			1人(支援)	1人
②	感染症拡大防止対策			3人	3人

2 訓練内容

- ① 避難退域時検査会場までの自家用車避難訓練 (初)
- ② 訓練参加者の検温及び問診を行い感染症拡大防止手順を確認 (初)
- ③ 新型コロナウイルス感染者を想定した自衛隊救急車による搬送訓練 (初)
- ④ 新型コロナウイルス感染者を想定した自衛隊ヘリによる搬送訓練 (初)
- ⑤ 在宅避難行動要支援者を想定したストレッチャー車による搬送訓練支援 (初)
- ⑥ 避難退域時検査会場で自家用車の放射能汚染検査を体験

<主な成果>

- ① 自家用車避難及び感染者の搬送手順等について確認することができた。
- ② 感染症拡大防止手順について確認することができた。



【健康状態確認（検温）】



【健康状態確認（問診）】



【ゲートモニターによる検査】



【放射線測定器による検査】



【自衛隊救急車】



【自衛隊救急車によるコロナウイルス感染者搬送】



【自衛隊ヘリによるコロナウイルス感染者搬送】



【中電ストレッチャー車による在宅避難行動要支援者搬送】

1 実施内容

- ① 講座
三菱総合研究所グループ
MRAリサーチアソシエイツ株式会社
技術安全事業部科学安全チーム 山元隆稔 氏
演題「原子力災害の基礎と対応のポイント」
- ② 境港市広域住民避難計画の概要
- ③ 自家用車避難訓練参加要領

2 参加者

自家用車避難訓練参加住民：15名

<主な成果>

- ① 放射線の人体への影響と原子力災害時の防護措置について、分かりやすい説明で理解を深めることができた。
- ② 広域避難計画の概要及び本年度の自家用車避難訓練参加要領について、訓練に先がけて実施することにより訓練効果を高めることができた。

